

学修支援活動報告

「学習相談コーナー」の設置

栗飯原 匡伸（大学教育研究開発センター）

2011年度夏学期より引き続き今年度も、教育・学習の実質化を支える、きめこまかい学修支援体制の構築を目的として、授業経験と学修支援のスキルを有する研究補助員（アドバイザー）が常駐する「学習相談コーナー」を設置した。

高校までの受動的学習習慣を、大学で求められる主体的な学習に転換するための学生の継続的成長を支援する。研究・学習をする姿勢を身に付けるとともに、授業外学習のための場所と時間を確保することにより、学習と教育の実質化を図るものである。

1. 実施概要

低 GPA、成績不振学生を主なターゲットとして、学生相談室と緊密に連携をとりながら、学習の動機づけを行い、継続的に学習の支援を行っている。授業で出された課題の直接の解答を教えるのではなく、レポートの書き方や文献探索法などの、ジェネリックな学習相談に対応している。

ただし、全学的な学修支援相談窓口の1つとして位置付けるとともに、開かれた学習相談コーナーとして、低 GPA の学生だけでなく、だれでも使える《自習室》であることをポスター、インターネット、SNS 等で宣伝している。

〈夏学期〉 月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の13：00～16：00（授業日のみ）

東1号館2階1205、1206教室

開室日数：56日 利用者数：のべ356名（前年度実績¹47日のべ388名）

（曜日ごとの利用者数 月：82名 火：101名 木：90名 金：83名）

〈冬学期〉 月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の13：00～16：00（授業日のみ）

東1号館2階1205、1206教室

開室日数：55日 利用者数：のべ403名（前年度実績57日のべ179名）

（曜日ごとの利用者数 月：82名 火：109名 木：121名 金：91名）

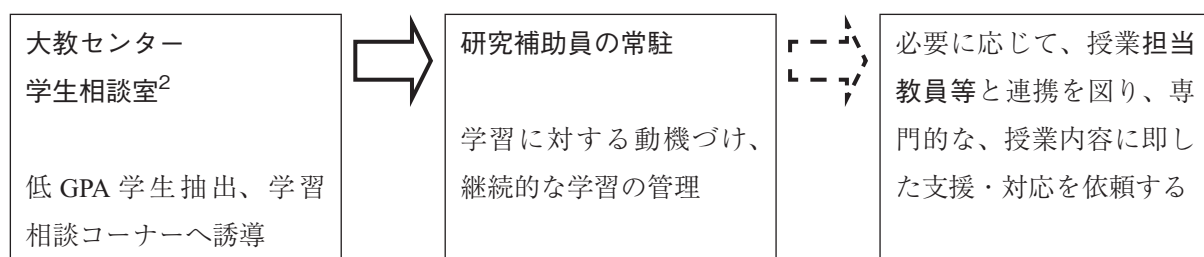
¹ 前年度夏学期の火曜日のみ東1号館1階の1101教室（収容人数154名）使用。学生からは、利用しやすいという声が多くあった。1205、1206教室（収容人数20名）の場合、長机6台のため、自習空間としては最大6人が理想的。

〈月ごとの開室日数と利用者数〉

夏学期	月		火		木		金		合計
	開室日数	利用者数	開室日数	利用者数	開室日数	利用者数	開室日数	利用者数	利用者数
4月	2	8	2	8	2	11	2	8	35
5月	4	17	5	28	4	34	2	12	91
6月	4	26	4	29	4	21	4	26	102
7月	4	31	4	36	4	31	4	30	128
合計	14	82	15	101	14	97	12	76	356
曜日平均	5.86		6.73		6.93		6.33		
昨年度実績 利用者数	12	202	11	40	12	82	12	64	388

冬学期	月		火		木		金		合計
	開室日数	利用者数	開室日数	利用者数	開室日数	利用者数	開室日数	利用者数	利用者数
10月	4	24	5	39	4	36	4	19	118
11月	4	24	4	26	4	37	3	26	113
12月	3	30	3	20	3	23	3	17	90
1月	1	4	3	24	3	27	3	27	82
合計	12	82	15	109	14	123	13	89	403
曜日平均	6.83		7.27		8.79		6.85		
昨年度実績 利用者数	15	50	14	21	15	54	13	54	179

学習相談の流れ



2. 主な相談内容

日にち	学年	カテゴリ	概要
2012/5/18		サポート	学修支援室からサポートを要請された学生。学習の定着。
2012/5/22		サポート	学修支援室からサポートを要請された学生。学習の定着。
2012/5/24		サポート	学修支援室からサポートを要請された学生。学習の定着。
2012/6/12	2	相談	留学生 法学2年。学習の効率化について。授業とアルバイトとのバランス。友だちができない。

² 2012年度は、学生相談室のほか、学修カウンセラー、保健センター、アカデミック・プランニング・センター（APLAC）等との連携を強化した。カウンセラー等から担当している低 GPA 学生の学習プランについて相談を受けるケースが増えた。

2012/6/28	2	雑談	6.12の学生と同じ。
2012/7/10		質問	カリキュラムについての質問はできるかという質問
2012/10/1	1	雑談	相談室の利用方法と、相談員の所属について。アルバイトを増やしたいが、授業とのバランスが難しいことを話す。
2012/10/4	1	雑談	キャップ制についての雑談。
2012/10/30	1	雑談	語学の勉強の仕方についてと、語学と GPA について。
2012/10/30		質問	PC の無線 LAN の接続の仕方。
2012/11/26		サポート	保健センターからの依頼。レポートの書き方について。「テーマ」設定がうまくできない、字数書けない、考察方法、タイトルの付け方について質問。教員からの詳細な条件があるものの、委縮してしまい書けないとのこと。特に、タイトルづけについては「読者の気をひくものであること」という条件を苦にしている。
2012/12/10		サポート	学修支援室からサポートを要請された学生。学習の定着。
2012/12/10		APLAC ゼミ	読書会。学生 2 名参加。
2012/12/13		サポート	学修支援室からサポートを要請された学生。学習の定着。

3. 活動成果

低 GPA、成績不振学生に対する支援実績は数名に留まるが、昨年度から引き続き学生相談室、保健センターとの緊密な連携や、今年度から学修カウンセラー、アカデミック・プランニング・センター（APLAC）との連携によって、発達障害学生のサポートや、成績不振者、長期留年者への支援など一定の成果を得ることができた。昨年度保健センターと学生相談室と共同で半年にわたる継続的な支援にあたった長期休学学生は、卒業論文を提出し、卒業に至り、今年度、社会に出て活躍しているという報告を学生相談室より受けた。GPA が限りなく 0.0 に近い学生が学習習慣が付き、複数単位取得することができたという報告を学修カウンセラーより受けた。

また 2012 年度より、低 GPA、成績不振学生に対する支援を長期的・継続的に進めるためのアカデミック・プランニング・センター（APLAC）が正規機関として設立したが、より一層有機的な支援体制を確立するためには、高等学校までの教員（講師）経験者や、キャリアカウンセラーなどの参加が必要不可欠と思われる。多角的な視野を持ったチームで、学生をサポートしていくことが望ましい。

一般学生に対する自習室提供の実績としては、1 日平均 6 ～ 7 名の利用者があった。本学内にはすでに図書館カウンター、学生相談室、各研究室等の学修支援・学習相談機能をもつ窓口がある。また図書館閲覧室や語学学習室等の各種学習スペースがある。その中で、学習相談コーナーは、気軽に利用できる《自習室》としてポスター、インターネット、SNS 等で宣伝した。研究補助員（アドバイザー）との雑談から、《自習室》の利用が定着化した学生も数名見られる。また何かしら悩みを抱えたり、思いを誰かと共有したいと思ったりしながらも、相談する場所がわからず飲み込んでしまってきた学生の数居の低い雑談の場としてのニーズも確認できた。こうした学習相談に対する〈数居の低さ〉のようなものの需要は、本センターがすすめてきた STA 制度とも、学生の主体的な授業理解をサポートするという面においては共通している。

